

論 文

“你好”は「こんにちは」なのか～日中挨拶ことばの比較と分析～

Is “Ni hao” really “Konnichiwa”? : A Contrastive Study of Japanese and Chinese Greetings

山内智恵美

Chiemi YAMAUCHI

Key words : 挨拶ことば, 日中言語比較, 比較文化学, 語学学習, 辞書

はじめに

外国語を学ぶための入門教材の大部分は、発音の学習段階が一段落した後に、挨拶言葉を学習するように編集されている。或いは、発音学習と挨拶ことばを、同時進行で学習するように編集されている。外国人が日本語を学ぶための教材、日本人が外国語を学ぶための教材、これら両教材の大多数が、この方針で編集されている。これが、ごく一般的な編集方法であるため、中国語を学ぶ初学者は、ごく当たり前に“你好”＝「こんにちは」、 “谢谢”＝「ありがとう」、 “再见”＝「さようなら」と記憶していくのである。そして、各種辞典やテキストの中で、このように解釈されている以上、この認識が正しくない、ということではできないが、問題は、辞書やテキストの解釈に従って生み出された“你好”＝「こんにちは」であるという一連の等式的解釈が、ある場面では正確ではない可能性があり、誤解をまねくことすら存在し、知らず知らずのうちに、落とし穴にはまっていくこともある、ということである。

本論は、日本と中国の挨拶ことばの比較を通して、辞書や教科書の助けを借りることは必要であるが、外国語の学習時に、辞書や教科書の記載を過剰に信じてはいけない。さもなければ、日本語と外国語のことばの或いは、文化的な区別を正しく理解することができないし、外国語の語彙も正しく理解することができない。よって、当然正しく使用することもできない、という異文化間コミュニケーションの問題を考えてみる。挨拶ことばの

範囲は、実に範囲が広い。広義に解釈するなら、挨拶ことばと呼ばれるものは、複数存在する。しかし、本論では、日常生活で使われる、口頭での挨拶ことばに限定し、書面や儀式などで使用されるものについては、扱わない。日本語と中国語両者を、ただ単に対比させるだけで、中国語の本質、その性格を正しく理解することなしに、過剰に辞書のみを信じる姿勢に警鐘を鳴らしていく。但し、本論は、言語学、社会言語学的な専門的研究ではなく、中国語の授業を担当する立場から、学習者へのアドバイスやヒントになれば、との願いから紙面を割くものである。

本文は、四部より構成する。第一節は、“你好”を中心に分析する。第二節は、“你好”以外の挨拶ことばについての分析を加える。第三節は、第一、二節とは逆方向の、日本語を中国語の挨拶ことばに対訳した事例について分析を加える。第四節は、挨拶ことばの差異が生じる、文化的背景に焦点をあて、分析を加える。

一、“你好”とその関連用語

今日では誰もが知っているように、“你好”の日本語の意味は、「こんにちは」である。確かに、テキストでは、そのように訳されているが、辞書に目を通すと、その扱いには、二通りある。第一類は、“你好”の単語としての解釈が存在しない。推測ではあるが、編纂者たちは“你好”をフレーズと捉え、単語としては扱うべきではない、と考えたのであろう。¹⁾ 第二類は、“你好”に関する解釈を加えているパターンである。恐らくこれは、

編纂者たちが、学習者の便宜をまず第一に考え、解釈を加えたのであろう。第一類の扱い方が割合として高いが、第二類の解釈に目を向けると、その解釈には、以下にあげる四通りが存在する。

- 1 こんにちは。²⁾
- 2 こんにちは。ご機嫌よう。³⁾
- 3 こんにちは。(参考)「おはよう、こんばんは」にも使う。⁴⁾
- 4 おはようございます。こんにちは。こんばんは。⁵⁾

筆者は、これらの解釈にまったく疑義を抱いていない。“你好”の意味を辞書で訳すならば、「こんにちは」と訳すのは、当然である。但し、上述した四通りの解釈には、共通点がある。それは、そのどれもが使用条件、範囲、場面などには触れていないことである。しかしこれも、ごく当たり前のことである。辞書は、論文ではない。よって、ことばを使うための条件、その範囲、場面などにすべて言及できるわけではない。つまり、ポイントだけを解釈するということが、妥当な選択であるが、挨拶ことばは、特別な性格をもつ。一般的な名詞、動詞などと異なり、そのまま、直接のコミュニケーションに使用することばであるため、使用範囲、対象、場面などに、どのような制限があるかを理解することは、かなり重要なことである。しかし、教科書、辞書の対訳、いずれを見ても、使用する場面や範囲に関する、決まりや制限の有無は、一切わからない。

私たち日本人は、毎日ある意味条件反射のように、ほぼ無制限に「こんにちは」と挨拶をする。ほとんどの日本人が英語を学習した経験がある。英語では、日本語で「こんにちは」を使うように、“Hello”を使っても、あまり問題がなかった。そして、中国語を学び、「こんにちは」を使うように、何の疑問も感じず、“你好”を何時でも、誰にでも使うようになる。言うまでもなく、

ことばは「生きている」ため、実際に使われる場面や状況を見極めることは、とても重要である。

“你好”は「こんにちは」のように、誰にでも、何時でも、何処でも使うことが可能であろうか。中国人の間で、“你好”は、どのように使われているのであろうか。結論から述べると、“你好”＝「こんにちは」ではない。つまり、前者の使用範囲は、後者に比べてかなり狭いため、場面を限定しないと、誤解を生じることもある。中国語には、日本語の「こんにちは」「こんばんは」「おはようございます」のような、誰にでも、何時でも、どの場面でも使えるフレーズがない。実際、親しい人(例えば、家族同士)、知り合い(例えば、同僚、クラスメート)、見知らぬ人(例えば、近所の公園ですれ違う人)には使わない。このような場面で使えば、違和感を覚える。中国では、顔見知り挨拶する時は、頷きや笑顔、目線だけを交わし、お互いを確認することが一般的である。しばらく会ってない人に会った時には、相手の姓名(フルネーム)で呼びかける。全く知らない人に対しては、無言で無表情が一般的である。顔見知りにも、まったく知らない人にも“你好”を使わないし、この時使えば、不審者だと思われてもおかしくない。では、“你好”は、一体どういう場面に使われるのであろうか。多用されるのは、名前を知らない相手、知り得ない相手、ビジネスの場面である。例えば、お店に入った時、タクシーに乗った時、“你好”と声をかけられ、こちらも“你好”と応える。つまり、店員やタクシー運転手を使う“你好”は、「いらっしゃい」の意味で使われており、こちらは応じる形で“你好”を使う。道を尋ねる時に使う“你好”は、むしろ「すみません」に近い。同じようにホテルに入った時の“你好”は、やはり「いらっしゃい」の意味に近いし、交渉の相手との初対面で使う“你好”は、「はじめまして」の意味に近い。

中国社会をよく観察してみると、中国では、日本の「こんにちは」が使われるほど、“你好”が使われる頻度は高くない。ある意味“你好”は、ビジネス用語と言える。チェックインの時にホテルマンを使う“你好”、ホテル内で客がホテルマンに使う“你好”、外出時、または外出先から戻った時にホテルのカウンターで使う“你好”、この“你好”は、ある意味、日本語の「こんにちは」と最も意味に近いし、一日中何度使っても構わない。

従って、“你好”は初対面のあまり親しくない相手、ビジネスのようなかきこまった場面で使うことはあるが、友人同志では、名前を呼び合う、或いは目線を合わせるだけで、挨拶の代りになる。友人には、“你好”という

1) 『中国語大辞典』(角川書店)、『中日大辞典』(大修館書店)、『クラウン中日辞典』(三省堂書店)、『はじめての中国語学習辞典』(朝日出版社)、『日漢・漢日詞典』(三省堂書店)、『日漢・漢日詞典』(外研社)、『基準中日辞典』(光生館)、『基礎中国語辞典』(NHK出版社)、『デイリーコンサイズ中日・日中辞典』(三省堂)、『中国語辞典』(岩波書店)など。
 2) 小型辞書『明解中日常用辞典』(燎原書店)第466頁。
 3) 小型辞書『精選日漢・漢日詞典』(東方書店)第469頁。
 4) 中型辞書『中日辞典』(小学館)第1009頁。
 5) 中型辞書『現代日漢漢日詞典』(外研社)第257頁。小型辞書『NEWアクセス 中日・日中辞書』(三修社)中日部分第365頁。

フレーズは使わないし、家族間では、当然使わない。ある意味“你好”は、人間関係に一定の距離保つことばであり、真の意味での“你好”に相当する日本語はない。中国語は日本語ほど、挨拶用語が発達していないが、挨拶に相当する行為（ボディランゲージ含む）は、多種多様で、人間関係によって、複雑な対応や選択が求められる。よって、知人のフルネームを覚えておかなければならないし、常に頭を働かせ、自分との距離や関係に相応しい挨拶の手段を選択しなければならない。比較してみると、如何なる場面や相手にも、「こんにちは」の一語を発すれば済む日本人に比べて、中国人の挨拶は、ある意味大変複雑である、と言える。

この他にも、“你好”に近い意味合いで使われるフレーズが、複数存在する。辞書から拾うと“早上好/早安”＝「おはよう/おはようございます」、 “晚上好”＝「こんばんは」、 “晚安”＝「おやすみなさい」などが挙げられる。“你好”と同様、これらのフレーズも中国人は、あまり使わない。例えば“晚安”は中国人の生活の中では、ほぼ耳にすることがない。“晚安”が使われるのは、テレビ、ラジオ、翻訳映画の中で、“Good night”「おやすみなさい」に相当する訳語、として使われる。一般的に中国の家庭で、寝る時には、特に何か言う必要はないが、軽く“睡吧”、少し優しく“睡个好觉”、ある意味期待を込めて“做个好梦”、と使うのが実態である。

よって、辞書やテキストには、“你好”は、「こんにちは」などと書かれているが、両者は、同じではない。或いは、ごく一部の意味が似通っている、と言えるだけである。両者を同じだと勘違いして、自由に、勝手気ままに使用したならば、文化という名の落とし穴に、はまっていくことになるであろう。具体的に言えば、起床後“早上好”、大学で先生や同級生に出会った時に“你好”、学校からの帰り道、家の前で隣人に出会った時“晚上好”などと挨拶すれば、中国人にとっては、かなり奇怪なこととなる。発音だけを聞くと、それらは中国語であるが、本場の中国語にはなれない。生の中国語をマスターしたいのであれば、大学で先生に出会った時は、“老师好”か、名字をつけて“李老师好”、“田中老师好”のように呼びかけるべきであり、同級生には彼らの名前で呼びかけるべきである。

二、“谢谢”“再见”とそれらの関連用語

“你好”と同様、“谢谢”の辞書にある意味は「ありがとう」だが、これもまた、現状に照らすと、「ありが

とう」の使い方と全く同じとは言えない。多くの場合、“谢谢”は「感謝します。具体的な、助けてくれた事実に対して」というニュアンスが強い。ただの儀礼で言うことばではない。本当に親しい関係の人に“谢谢”を使うと、中国人は、却って親しさが失われてしまう、と考える。よって、家族間では、特に年配の方は、“谢谢”を殆ど使わない。昨今、若者は西洋文化の影響を受けたため、“谢谢”を前より使うようになったが、やはり日本語の「ありがとう」のように、頻繁に使用することはない。“谢谢”と「ありがとう」の真の意味は、合致していない。“谢谢”も人間関係によって、その“谢谢”の中身がかなり変化する。“你好”にも使用範囲が限定されていたように、“谢谢”も使用範囲が限定される。「ありがとう」のように、広範囲に何時でも、何処でも使えることばではない。

“谢谢”の使い方を見てみよう。その使い方は、主に二通りある。まず一通りは、西洋文化圏での“Thank you”、日本語の「ありがとう」を使うように、軽い意味、儀礼的に使うものである。これは、“你好”同様、主にビジネス場面で使われる。次は、知人間で使われる“谢谢”である。これは、「本当に助かった。本当にありがとう。感謝します。」というニュアンスがある。単なる儀礼ではなく、是非ともお礼を言いたい、という気持ちを表現する。

同じような使われ方の例として「おかげさまで」ということばがある。辞書には、“托您的福”を「おかげさまで」と解釈しているが、日本語の意味は、中国語に比べて、はるかに軽く、特定する相手がなくても使用できる。例えば、卒業式で「卒業おめでとう」と言われた時、日本人は「おかげさまで」と言い返す。これは、相手に対して、感謝の気持ちがあるかどうかに関わらず使えるが、中国語の“托您的福”は、相手への感謝の気持ちを強く含む時に使い、単なるお世辞や儀礼で使うことばではない。

関連する他の例を見てみよう。“不客气”、“不谢”の意味は、「どういたしまして」と訳されているが、このことばの本当の意味は、「どういたしまして」とは異なる。「どういたしまして」には、謙虚さがある。「たいした事はしていないよ」「遠慮しないで」というニュアンスで使われる。一方“不客气”、“不谢”は「私達は、強い人間関係で結ばれているのに、人間関係を遠ざけるようなことばを使わないでよ」というニュアンスが含まれる。“不客气”、“不谢”の存在は、前述した“谢谢”が、家族間、親しい友人間での使用を嫌う、ある種の証

扱材料ともなりえる。

“再见”を見てみよう。“再见”も「さようなら」と一致しない場合がある。正確に言えば，“再见”は、「また会いましょう」（会いたい、会える見通しがある）というニュアンスが強い。台湾人や南方の人々は，“再会”を使う。“再会”と聞けば、中国語の学習歴がなくても、日本人なら、その意味が理解できるであろう。つまり、退院する時や恋人同士が別れる時、お葬式では，“再见”は使えない。そもそも“再见”は「再び会う」意味で使われるのだから、会わない方がいい、会う見通しがない、会いたくない時には、使ってはいけないし、少なくとも使いたくない。日中間で“你好”と「こんにちは」、 “谢谢”と「ありがとう」にある違いよりも，“再见”と「さようなら」に存在する違いの方が、遥かに大きい。よって、殆どの辞書では“再见”の対訳に「さようなら」と「また会いましょう」の両義を並べているが、「さようなら」だけをあげる辞書も見られる。

- 1 [応] さようなら。それではまた。⁶⁾
- 2 圈 またお目にかかります。さよなら。ではまた。⁷⁾
- 3 〈套〉 さようなら。ごきげんよう。また会いましょう。では失礼。⁸⁾
- 4 〈動〉 さようなら。またお会いしましょう。⁹⁾
- 5 さようなら。ごきげんよう。¹⁰⁾
- 6 さようなら。またお目にかかります。¹¹⁾
- 7 〈挨〉 さようなら。¹²⁾

辞書にも、教科書同様、「さようなら」だけの記載と「さようなら+また会いましょう」の二通りの記載が見られる。前述したように，“你好”は使用範囲などに制限がある挨拶用語であり，“再见”も“你好”同様、誰

にでも、何処でも使える用語ではない。

“你好”と“你好”関連用語，“谢谢”と“谢谢”関連用語，“再见”と“再见”関連用語は、日中間で使用範囲などが異なる挨拶用語であり、日中挨拶用語間では、一般的にこの傾向が強い。しかし、少数ではあるが、その使用範囲が、ほぼ一致する挨拶用語も存在する。例えば、“回头见”、“回见”がその例である。日本語では「では、また」と訳されており、辞書記載の解釈と実際の使用範囲などが、ここではほぼ一致している。

三、日本語から中国語への対訳について

第一、二節において、中国語の挨拶用語を日本語に対訳した場合に生じる、誤解や錯覚について、いくつか例をあげて分析した。前述した例証を通して、外国語と母国語の間で、多くの場合、対訳という手段を用いるが、対訳するのが如何に難しいか、辞書には限界があることが観察できた。特に挨拶用語は、文化的習慣が大きく関わるため、無理やり、中国語の挨拶用語を日本語に、1対1の形で配列するならば、誤解が生じる可能性が高い。これは、外国語学習の落とし穴といえるだろう。実は、自分の母国語を外国語に対訳し、外国人に日本語の習慣によって使用することにも、落とし穴が存在する。

この節では、これまでとは逆の、日本語から中国語への対訳を例にとり、分析を試みる。

日本人は、「すみません」を多用する、と言われる。我々日本人は、無意識の内に、様々な場面で「すみません」を使っている。日本人間では、場面ごとに意味の微妙な違いを正確に捉えて理解しているため、問題はおきない。しかし、この習慣をそのまま中国語に使えば、大変な問題がおきる。謝罪時の「すみません」は、“对不起”“抱歉”に近い。物事を人をお願いする時の「すみません」は、“劳驾”“借光”に近いと解釈されているが、¹³⁾ただ声をかける時、特に意味のない「すみません」（店員を呼ぶ時など）もあり、この「すみません」は中国語に訳しづらい。つまり、この「すみません」の対訳として、相応しい中国語が存在しない。無理やり“对不起”や“劳驾”と訳したとしても、何れもおかしな結果になり、中国人にとって、「なぜこの人は、何も悪いことをしていないのに、まず先に、どうして謝るのだろうか。」と誤解される恐れがある。

「すみません」の用例の一部は、訳しづらいが、それでも一部は、確実に対訳できる。しかし、日本語の「ど

6) 大型辞書『中国語大辞典』（角川書店）第3869頁。
 7) 準大型辞書『中日大辞典』（大修館書店）第2328頁。
 8) 中型辞書『中日辞典』（小学館）第1827頁。
 9) 中型辞書『クラウン中日辞典』（三省堂書店）第1386頁。小型辞書『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）第640頁。小型辞書『中国語辞典』（岩波書店）第680頁もほぼ同じ。
 10) 小型辞書『現代日漢・漢日詞典』漢日部分（外研社）第455頁。小型辞書『NEWアクセス 中日・日中辞書』（三修社）中日部分第644頁も同じ。
 11) 小型辞書『精選日漢・漢日詞典』（東方書店）漢日部分第711頁。小型辞書『基準中日詞典』（光生館）第260頁。小型辞書『明解中日常用辞典』（燎原書店）第953頁もほぼ同じ。
 12) 小型辞書『日漢・漢日詞典』漢日部分（三省堂書店）第733頁。小型辞書『デイリーコンサイズ 中日・日中辞典』（三省堂書店）第733頁。中型辞書『基礎中国語辞典』第826頁も同じ。

13) 『日中辞典』（小学館）第990頁。

うも」は、更に厄介な用語である。「どうも」は、確かに副詞性の「とても」「本当に」という本来の意味を持っているが、使用場面から分析すると、実に多種多様である。「ありがとう」「すみません」「こんにちは」、そして「さようなら」に言い換えることができる場面もあるが、特に意味のない、儀礼的に使われる「どうも」は、最も訳しづらい。

辞書では、「どうも」を“很”“实在”にまとめて説明する。以下にその例を示す。

あいさつの「どうも」→“很, 实在”

例：どうもご苦労さま。／太辛苦了。

例：どうもありがとう。／多谢。

例：どうもすみません。／实在对不起。

例：や、どうも。／[あいさつ] 唉，你来了。[わびる時の] 唉呀，对不起。

例：この間はどうも。／前几天，实在对不起（谢谢）。¹⁴⁾

恐らく日本語の「どうも」が使われる場面はこれ以上だが、これが辞書の限界である。

外国語Aを母国語aに対訳することは、辞書の役目であり、実際、「苹果」＝「りんご」のように、きちんと対訳できる事例もたくさん存在する。比較して見ると、名詞、動詞、形容詞は、対訳できる場合が多いが、それでも「幹部」≠“干部”，「出席する」≠“出席”，「かわいい」≠“可爱”のような例も少なくない。そして、日中挨拶用語の対訳は、難しいケースが多い。辞書や教科書では、“你好”を「こんにちは」，“すみません”を“对不起”“劳驾”としているが、前述したように、辞書の対訳では含まれない意味が、多数存在する。辞書の編纂には、紙面の制約があるため、ポイントだけをまとめ、対訳の形にするのが一般的である。辞書の編著者として、時には対訳が最善の方法ではないとわかっているが、他の選択肢をとることはない。これは、ある意味編著者である彼らの使命であり、宿命でもある。

似たような現象に、日本映画の翻訳も、同じようなバツの悪い場面に直面することがある。映画に出てくる会話は、訳さなければならないが、日本語の挨拶用語は日本人の習慣から来ており、当然であるが、中国人の習慣ではない。例えば、早朝出かける時の「行ってきます」は、“我走了”。帰宅した時の「ただいま」は“我回来了”と訳すが、中国人には、このような挨拶習慣がない。

中国人がこの映画を見て、このことばを聞けば、奇妙な感じがするはずである。記者自身も、自然ではないことは、はっきりわかっているが、それでも訳さないわけにはいかない。筆者は、映画の翻訳に批評を加える意図はない。ここで言いたいのは、映画の翻訳もこのような調子である。中国語を学習する人は翻訳者ではないが、日本語の習慣を、中国語の会話の中に持ち込むことを避けるよう、心がけるべきである。前述したように、日本語では先生に、「こんにちは」と挨拶するのは、礼に合ったことである。しかし、“你好”の本当の意味を理解した後は、先生に向かって“你好”と挨拶することは、しないはずである。同じ道理で、日本語の日常的に使われる挨拶用語と、中国語の違いを理解した後は、日本語の言語習慣をむやみに中国語の中に持ち込むこと、日本語を中国語に対訳した後、むやみに使うことはしないはずである。以下に日中挨拶用語の対訳を列挙するが、これらの大多数は、ただ単に日本語の言語習慣の辞書の上での対訳にすぎず、中国人の言語習慣に合うものではない。

いってらっしゃい	去吧
おかえりなさい	回来了
いただきます（食事前）	吃吧
お邪魔します。	打搅了／打扰了
ごめんください	有人在家吗？
ごちそうさま／ごちそうさまでした	多谢款待！
失礼します	对不起，打搅了／打扰了
こちらこそ	彼此彼此
おだいじに	多保重
はじめまして	初次见面
（では）おげんきで	保重身体
おねがいします	拜托了
お待たせいたしました	让您久等了
おめでとうございます	恭喜！恭喜！
（いいえ）どういたしまして	不客气
かしこまりました	明白了

人々が外国語を学習する時には、辞書の力を借りないわけにはいかない。一方で辞書とは、限界のあるものだという意識する必要がある。辞書の対訳形式では、生きた言語のすべてを包括することはできない。誤訳ではないが怪しいものや、翻訳できないものにも、よく出くわす。紙ベースの辞書よりも、更により信頼できる辞書がある。それは、生きた辞書、即ち母国語の用例であることを知ってもらいたい。母国語の用例を通して

14) 『日中辞典』（小学館）第1333頁。

こそ、我々は、私たちが辞書で調べた内容を、母語話者が、実際の様に使っているかが、はっきりとわかる。「你好」であれ、「すみません」であれ、生活の中での実際の使用例を観察してこそ、よりの確な理解を得ることができる。特に挨拶用語は、このような態度が必要である。なぜなら、日本語は挨拶ことばが非常に発達した言語であるため、日本語の挨拶ことばの相当数を、中国語に訳することは難しいし、これらの挨拶ことばを中国人は、使っていない。この点について、第四節で更に詳しく分析を加える。

四、粘着剤・潤滑剤としての役目について

日本語の挨拶ことばは、非常に発展しており、とても豊富である。この豊さは、朝鮮語には及ばないかもしれないが、多くの言語の中でもトップレベルに達しており、日本語の特徴の一つだと言える。「すみません」を始め、「こんにちは」「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「行ってきます」「おやすみなさい」「失礼します」「ごめんください」等等、一日中、挨拶ことばを耳にしないことはない。これらの挨拶ことばに、敬語表現、儀式用語や書面様式語を加えるなら、更にその量は膨らむことになる。日本人は、「あの人は礼儀がない。冷たい。社会性に乏しい。挨拶もできないから。」と言う。逆に、「あの人は礼儀正しい。優しい。いつもきちんと挨拶してくれるから。」とも言う。日本では、挨拶することが社会的に求められている。だから、子供たちにも、学校や家庭で、きちんと挨拶することを教える。このような文化的環境にいる日本人は、他国の言語にも、同じような挨拶ことばが存在する、と無意識に考える。その実は、挨拶ことばが発達していない言語も、多数存在する。まさに、中国語は、その一つである。中国語の挨拶ことばは未発達で、数も少なく、その表現も乏しい。

では、なぜ日中間にこのような差が生まれたのであろう。社会言語学者が、語彙の発達に事その物の発達ではなく、ただ単なる意識の発達にすぎない、と指摘している。中国文化は「食の文化」と言われており、その料理法は極めて発達している。例えば、日本語の「炒める」という一つの単語が、中国語では、炒める時間の長短、用いる油や水の量、火力の強弱によって、「炒」「煎」「焼」「煽」「熨」「爆」「槍」など多種に分けられている。同じ道理から、日本語の挨拶ことばが発達したのは、偶然ではなく、必ず何かの原因がある。

日本において、挨拶ことばが発達した原因の一つは、まず礼教の影響だと考えられる。朝鮮語と同様、上下、

内外、遠近による複雑な人間関係により、人々の間では、その関係に相応しいことばが交わされる。挨拶する行為そのものが、身分関係の承認、確認であり、「礼」の精神に基づいており、社会秩序の安定を維持するための行為である。つまり、社会秩序維持の「粘着剤」的機能を持つ、と考えられる。辛亥革命以後、特に中華人民共和国成立後、中国文化は、文人中心文化から庶民中心文化へと転換した。表現形式を注視する礼教の崩壊と同時に、書くことに重きをおいた古代中国語から、口語を中心とした現代中国語に、ゆっくりと少しずつ変化するに従って、本来持っていた文人文化の挨拶ことばそのものの仕組みが崩壊し、庶民的な、生活に関連深い挨拶ことばに取って代わられた。ここで、最もよく使われることになったのは、「吃(飯)了吗?」「去哪儿?」「做什么?」「忙吗?」等の疑問フレーズであり、これらはすべて、相手の生活への関心を表したものである。当然、知らない人には関心を示す必要がないから、知らない者同士は、ことばを交わさない。21世紀に入り、中国は国際化した。農村や中小の町では、大きな変化はなかった。別の観点から言うならば、西洋文化の影響を受けた。新しいスタイルの挨拶ことばが生まれた。正確に言えば、「你好」も外来語であり、100年前には存在していない。英語を学習した人々が、「How are you?」の翻訳として、「你好」というフレーズを作り出した。「早上好」「早安」「晚上好」「晚安」等も同様に、外来語に属すると言える。その結果、おかしな事態が起こる。伝統的な書面語の性質をもった挨拶ことばの伝承が途絶え、外来語の性質を持った「你好」などの挨拶ことばが出現したが、人々が実際に使ったのは、やはり「吃(飯)了吗?」等の系統に属する疑問フレーズであった。つまり、文化の転換が、現代中国語において、挨拶ことばを大幅に減少させた重要な要因、と言える。

この他に、日本語の挨拶ことばは、コミュニケーションを深めるための「潤滑油」的役目を果たしている、と考える。では、なぜ日本では「潤滑油」が必要なのであろうか、また、なぜ中国では、「潤滑油」を必要としないのであろうか。この疑問が生じる。言語は、例外なく意味を持つが、持っている意味の濃度、情報量には、各言語間で時に、大きな隔りがある。極端に言えば、詩的なことばと科学的なことばには、含まれる情報量が全く違う。正確な比較とは言えないが、どちらかと言うと、日本語の挨拶ことばは、前者に近く、中国語は、後者に近い。中国語の挨拶ことばには、挨拶が持つ本来の意味が含まれている。つまり、何か情報を得たり、伝えた

りする傾向が強い。一方、日本語の挨拶ことばの多くは、挨拶ことばそのものが意味を持つというよりも、挨拶するという行為で、双方の気持ちや雰囲気伝える傾向が強い。

では、なぜ日本社会には、発達をとげた挨拶ことばが必要なのであろうか。なぜ、コミュニケーションに「潤滑油」が必要なのであろうか。筆者は、日本人の民族性と関係が深い、と考える。日本人はシャイで繊細な国民だと言われる。挨拶の中に、お辞儀という習慣が取り入れられていることから、人と人との距離が遠い、と言われる。つまり、コミュニケーションの必要性は感じるが、「潤滑油」がないとうまく展開できない、または、展開できないことを心配する。いきなり、コミュニケーションの本題に入ることを避けるために、挨拶をしたり、天気の話をしたり、当たり障りのない手段から入り、距離を縮めていこうと考える。そのため、「(潤滑)油を注す」行為が頻繁に行われるようになったのではないかと考える。比べて見ると、中国人は、それほど細心ではないし、タブーも多くない。双方がことばを交わしたければ、言い訳や準備は何もいらぬ。すぐさま、始めて良い。中国人にしてみれば、頻繁にかわされる挨拶は、全く無駄な行為であり、知らない人との挨拶は、ある意味、エネルギーの無駄である。

根本的な違いは、中国人の挨拶は、知らない人に対しては、行われぬ。挨拶するという行為は、目的を持った、具体的なコミュニケーション手段である。自分の相手への思い、関心を示し、相手に関する情報を得るための、両者の絆を確認するための一種の手段である。一方、日本語の挨拶用語は、基本的に誰にでも使えるものであり、社会全体の求心力を高め、社会全体を穏やかな雰囲気保つための、潤滑油としての役目を持つ。その結果、日本語の挨拶ことばは発達し、数も増え、誰にでも、何処でも使えるように、使用範囲が広がったが、その中身は薄い。挨拶ことばとして形式化され、広く浅く使える日本語の挨拶ことばに対し、現代中国語の挨拶ことばは数も限られ、使用範囲も狭いが、逆に言えば、挨拶ことばとして、形式化されてはいないため、流動的で、一度使われる時には、意義をもった会話がなされる。

おわりに

総括すると、ことばの数量であれ、性質であれ、日中間の挨拶用語には、大きな違いがあった。中国語を学習する者として、的確に両者の違いを学んでこそ、始めて、中国語の挨拶用語を正確に使うことができる。しかし、

学習者の多くは、日本文化と異文化間にある差異への理解が足りない。習慣的に、中国語を日本語の挨拶用語に対訳し、記憶しているのが現実である。これには、英語学習の影響もある、と考える。日本語の挨拶用語は、広範囲で使うことができる。同様に、英語の挨拶用語も広範囲で使うことができる。我々日本人は、一般的に、まず英語を学習する。英語の挨拶用語は、基本的に、日本語の挨拶用語と同じ様に使ってもあまり問題がないため、外国語の挨拶用語でも、その本質が日本語と同じである、と思ひ込むか、または、注意を払わなければならない、ということをおぼえてしまう。そこで、中国語を学習する時にも同様に考え、または思ひ込み、様々な誤解が生じるのである。“你好”を始め、中国語の挨拶ことばには、使用制限があり、使用範囲も狭い。その人物との関係が近い、または、遠い人には使わない。近くも遠くもない人との間で、コミュニケーションを取る時に、互いの関係を確認したり、絆を強化したりするために使われる。日本語、英語の挨拶ことばとは、本質を異にする面が存在する。つまり、高等学校学習指導要領にもあるように「どのような言語の使用場面でのどのような話題を取り上げるのが適切か、あるいは、対話する際に相手とどのくらいの距離をとったらいのかなど」¹⁵⁾を考える必要がある。

教科書、辞書は、外国語学習には欠かせない存在であるが、その表記などには限界がある。特に挨拶ことばのような、場面や対象者を限定することばに対して、教科書や辞書だけに頼らず、生きていく辞書、つまり中国人が実際に使用する場面や習慣を観察し、正しく理解し、彼ら中国人の習慣を真似よう、とする姿勢が重要ではないだろうか。

参考文献

- 倉石武二郎編『岩波中国語辞典』1963年9月初版、岩波書店
 商務印書館・小学館共編『中日辞典』1992年1月初版、小学館
 大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』1994年3月、角川書店
 愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典』1994年5月増訂第2版、大修館書店
 香坂順一・太田辰夫共編『基準中日辞典』(増訂版)1988年2月初版、光生館

15) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』(第四節 異文化理解 77頁)

- 金俊培・金星培共編『明解中日常用辞典』2000年初版，燎原書店
- 松岡栄志他編『クラウン中日辞典』2001年11月初版，三省堂書店
- 相原茂編『はじめての中国語学習辞典』2002年2月初版，朝日出版社
- 对外貿易大学・商務印書館・小学館共編『日中辞典』1990年初版，小学館
- 宋文軍・姜晚成共編『現代日漢大詞典』2000年初版，商務印書館，北京
- 王萍他編『現代日漢・漢日詞典』1991年9月初版，外語教学与研究出版社，北京
- 杉本達夫他編『アイリーコンサイズ中日・日中辞典』1999年11月初版，三省堂書店
- 姜晚成編『精選日漢・漢日詞典（新版）』2000年5月新版，東方書店・商務印書館
- 上野恵司編『基礎中国語辞典』2002年1月初版，NHK出版社
- 杉本達夫他編『外研社・三省堂 日漢・漢日詞典』2002年12月初版，外語教学与研究出版社・三省堂
- 蘇文山監修『新装版NEWアクセス 中日・日中辞典』2011年10月初版，三修社
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』2008年9月初版，開隆堂出版社
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』2010年初版，開隆堂出版社